

勝央文化ホール新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

令和2年8月1日策定
勝央町・勝央町教育委員会

本ガイドラインは、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和2年3月28日（令和2年5月25日変更）新型コロナウイルス感染症対策本部決定。以下「対処方針」という。）を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（令和2年5月4日）において示されたガイドライン作成の求めに応じて作成された公益社団法人全国公立文化施設協会「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（令和2年5月14日・令和2年5月25日更新）及びクラシック音楽公演運営推進協議会が策定した「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って、勝央文化ホールにおける今後の新型コロナウイルス感染症対策について、実施すべき基本的事項を整理し、今後の取組の参考に供するために作成したものである。

なお、本ガイドラインの内容は、今後の対処方針の変更のほか、新型コロナウイルスの感染の地域における動向や専門家の知見を踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとする。

1 感染防止のための基本的な考え方

勝央文化ホールは、多目的ホールで、レッスンルームに加え、スタッフルーム、楽屋を有する中規模館である。施設の特長や、公演の規模や内容を十分に踏まえ、施設内及びその周辺において、舞台公演などを鑑賞するため、また施設を利用するために来場する者（以下「来場者」という。）及び出演者、舞台スタッフ、講師など事業に携わる者（以下「公演関係者」という。）、当ホールの管理・運営に従事する者（以下「従事者」という。）への新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、必要な対策を講ずるものとする。

特に、①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）、②密集場所（多くの人が密集している）、③密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）という3つの条件（いわゆる「三つの密」）のある場では、感染を拡大させるリスクが高いと考えられ、こうした環境の発生を極力防止するなど、感染回避に徹底して取り組むこととする。

さらに、劇場、音楽堂等の施設においては、これまでクラスターは基本的には発生しておらず、各種法令等により高機能の空調設備の整備が義務付けられており、強制的な機械換気が可能なこと、また劇場内での公演中は、来場者は基本的には同方向を向いて鑑賞しており、鑑賞者間においては対面による会話等が原則想定されないこと等も踏まえ、以下の具体的な対策を講ずることとする。

2 公演主催者が講じるべき具体的な対策

第1章 ご来場いただくお客様の感染防止

1. 施設管理者との調整

公演主催者は施設管理者と各自治体の発している収容率等の方針のもと、感染防止対策について事前に調整する。可能な限り下記のような感染対策が実施されるよう、施設管理者の協力を得て、努めるものとする。尚、感染が疑われる者が発生した場合には速やかに連携が図られるよう、所轄の保健所との連絡体制を整える。

- (1) 手洗い・手指の消毒を励行するとともに、入場口付近や各所に手指消毒剤を設置し、使用を促す。
なお、消毒液は、当該場所に最適なものを用いるようにする必要がある。また消毒液は不足が生じないよう定期的な点検と補充を行う。（以下、消毒に関する記載において同じ。）
- (2) 非接触型の体温計やサーモグラフィ等を配備し、利用を案内するスタッフを配置する。
- (3) 接客や対面での案内を行うスタッフにはマスクを着用させ、必要に応じて手袋も使用させる。
- (4) 対面販売を行うブース等には、透明ビニールカーテンやフェイスシールド、又はアクリル板等を設置する。
- (5) お客様が並ぶ可能性がある場所に、前の人から1m以上（可能なかぎり2m）離れることを求める案内を掲示する。
- (6) トイレについては不特定多数が接触する場所は、清掃・消毒を行う。
- (7) 不特定多数の人が触れる箇所（扉、蛇口、手すり、テーブル、椅子等）を、1日数回程度消毒する。
- (8) ホール内でお客様が入場するすべてのエリアで適切な換気を実施する。
- (9) 体調を崩されたお客様を案内する別室を確保する。

2. 感染防止対策の周知

お客様に以下を徹底いただくように周知する。

- (1) 感染防止のための公演主催者からの要請事項を守る。
- (2) 会場における「3密」を避ける。（ソーシャル・ディスタンスの確保）
- (3) 会場内ではマスクを常時着用し、咳エチケットも実践する。
- (4) こまめな手指消毒又は手洗いをを行う。
- (5) 来場前に検温し、次の条件に該当する方は入場できないことを周知する。
 - ① 37.5度以上の発熱がある。
 - ② 咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐の症状がある。
 - ③ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある。
 - ④ 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴、及び当該在住者との濃厚接触がある。

3. チケット販売と発券

チケットの販売と発券は、接触を抑制する観点から、可能な限り以下のように行う。

- (1) チケットは事前にご購入いただき当日にご持参いただく。

- (2) チケット販売の窓口スタッフにマスクを着用させ、必要に応じて手袋も使用させる。
- (3) 対面でチケット販売を行う場合は、透明ビニールカーテンやフェイスシールド、又はアクリル板等を設置する。
- (4) 当日券を購入する際は、チケット売場で前の人と1m 以上（可能なかぎり2m）間隔を空けて整列していただくよう、足元などにサイン等を示す。
- (5) 不特定多数の人が触れる箇所を頻繁に消毒するよう、チケット販売窓口スタッフに周知する。
- (6) チケット販売窓口スタッフに、入退室の前後は手指の消毒、又は手洗いを丁寧に行うことを周知する。
- (7) 金銭の受け渡しはコイントレーを使い、できるだけ直接手と手が触れないようにする。
- (8) チケット販売の際、購入者の氏名・住所・連絡先を控えておく。

4. 入場時の対応

入場時における接触を抑制する観点から、以下のように行う。

- (1) 非接触型の手首体温検知システムで検温をした後にお客様に入場していただく。37.5度以上の発熱がある場合、体調不良の場合は入場をお断りする。
- (2) 会場に入場するお客様が密集することを避けるため、段階的に入場を行う。
- (3) 入場するお客様に、前の人から1m 以上（可能なかぎり2m）離れることを求める案内を掲示する。
- (4) 入場時のチケット半券のもぎりはお客様で行っていただくよう周知する。可能であれば、主催者が目視で確認する方法も取り入れる。
- (5) 入場後は、手洗い又は手指の消毒を行うよう周知する。
- (6) 原則として、プログラムの手渡しは行わず所定の場所からお客様ご自身で取っていただくようにする。（席にパンフレットを置いておく等）
- (7) チケット担当のスタッフにマスクを着用させ、必要に応じて手袋も使用させる。
- (8) お客様に出演者の入待ちを控えていただき、プレゼントや花束等は控えるよう周知する。

5. 客席

客席は、感染状況を踏まえながら、公演中の接触をできるだけ避ける観点から、当面は以下の対策を講じる。

- (1) 入場者と座席が確認できるよう原則として指定席とするなど、感染者が発生した場合に速やかに対応できるよう備える。
- (2) 座席の最前列付近は、公演する演目や内容を踏まえ舞台面から適切な距離を確保する。
- (3) 感染予防に対応した座席対策(家族等の一集団と他の集団との距離を確保した席配置、又は距離を置くことと同等の効果を有する措置 等)に努める。
- (4) 客席内で音響・照明等のオペレーションを行う場合は、客席との間隔を十分とった配置とする。

6. 開場時、休憩時間における対応

開場時や休憩時間は、接触を控える観点から、以下のように行う。

- (1) 開場時及び休憩時間
 - マスクを着用し、会話は控え、自席で静かに過ごすよう周知する。
 - ロビーやホワイエでは人との間隔を1m以上離し、会話はなるべく控えるように周知する。
 - ロビーに設置しているテーブル、椅子、車椅子等の備品類は定期的に消毒清掃する。

- 不特定多数の人が触れる場所を触れた場合には手洗い又は手指の消毒を周知する。
- お客様ご自身の手で顔等を触らないよう周知する。
- 事前に余裕を持った入場時間を設定し、来場者が密集することを避けるような開場時間の前倒し等の工夫を行う。
- 余裕を持った休憩時間を設定し、時間差でトイレやホワイエ、ロビーなどを利用するよう周知する。
- 声援は控え、拍手のみとしていただくよう周知する。

(2) トイレ

- トイレでは、少なくとも1m 以上の間隔を空けて整列するよう周知する。
- トイレの使用後は、蓋を閉じてから流すよう周知する。

7. 公演終了後の対応

全公演が終了した後の対応については、接触を抑制する観点から、可能な限り以下のように行う。

(1) 退場時について

- 公演終了後は、混雑を避けるため、時間差を設けて退場する。

(2) 物品販売

物品販売を行う場合は、接触を控える観点から以下のように行う。

- パンフレット、グッズ等の販売を行う場が混雑しないよう入場制限を行うことを周知する。
(出入り口の混雑を防ぐため、テントを建て外での物販販売も考慮する。)
- パンフレット、グッズ等の販売を行う場合は、少なくとも1m 以上の間隔をあけて整列するよう周知する。
- スタッフがマスク、手袋を着用することを周知する。
- 対面販売の場合、透明ビニールカーテンやフェイスシールド、又はアクリル板等を設置する。
- 不特定多数の人が触れるサンプル品・見本は置かないようスタッフに周知する。

(3) サイン会

- 原則サイン会は実施しないことを周知する。
- 楽屋口等での入り待ち、出待ちはお断りする。
- 出演者へのプレゼントや花束等は控えるよう周知する。

8. 当日、感染が疑われる人が出たときの対応

公演中に体調を崩されたお客様がいた場合は、以下のように行い、適切に対応できるように心掛ける。

- (1) 速やかに別室へ案内し、隔離する。
- (2) 対応するスタッフは、マスクや手袋を着用のうえ対応する。
- (3) 速やかに、医療機関及び保健所へ連絡し、指示を受ける。

新型コロナウイルス受診相談センター（24時間対応）

<u>美作保健所勝英支所</u>	電話番号	0868-73-4054
	F A X 番号	0868-72-3731

- (4) 保健所等の公的機関による聞き取りに協力し、氏名及び緊急連絡先を把握し名簿を作成する等、必要な情報提供を速やかに行えるよう体制を整える。

(5) スタッフによって取得した個人情報、漏洩することがないように十分な対策を講じる。

第2章 出演者・スタッフの感染防止

1. 基本的な感染予防対策

日常生活において出演者及びスタッフ等の感染予防対策として、以下のことを徹底する。

- (1) マスクを着用するとともに、咳エチケットも実践する。
- (2) 小さな節目ごとに、手指消毒又は手洗いを丁寧に行う。
- (3) 日々、十分な睡眠を取り、水分を摂取することをはじめ、健康管理に努める。
- (4) ステージ衣装やスタッフ衣装等はこまめに洗濯する。
- (5) 楽器・楽譜・舞台道具等を取り扱う者は手指消毒又は手洗い等日常的な感染防止対策に努める。
- (6) 自宅で定期的な検温を行い記録し、必要がある場合、公演主催者等に提出できるよう準備する。
- (7) 公演又はリハーサル開始までの1週間に、次のいずれかの症状がある出演者は、医師又は関係機関に相談し、その判断に基づき、主催者は出演の可否を決定する。
 - 37.5度以上の発熱があった。
 - 咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐の症状があった。
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触があった。
 - 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触があった。
- (8) 海外からの出演者の招聘は、当該国による日本への渡航制限および日本政府による当該国からの入国制限が解除されるまで控える。

2. 関係者との連携体制の構築

感染リスクをできるだけ避けるため、スタッフの人数は必要最小限に留め、関係者との連携体制を構築する。

- (1) 公演に関わる関係者を事前に把握し緊急連絡先を確認する。
- (2) 公演主催者は施設管理者と綿密に連携を図る。
- (3) 少なくとも次のような関係者とは、事前に感染予防について対策を確認・調整・共有をする。

○施設管理者

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 接触感染・飛沫感染・施設としてのリスクの評価とそれに基づく開催の可否。特に多数の来場者が見込まれる公演は各都道府県の対応に基づき実施の可否を含めて対応を検討。
又、高齢者や持病のある方が多数来場すると見込まれる公演についても感染した場合の重症化リスクが高いことから、より慎重な対応を検討。② ホール内でお客様が通常入るすべてのエリアで常時換気の実施
(トイレや控室・楽屋も含めて)③ 当日体調を崩された出演者・スタッフを案内する別室の確保④ 緊急時の対応 など |
|---|

○舞台、音響、照明等の機材や備品等の取扱者

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 取扱者の特定② マイクフォンなど複数名が使用する機材のこまめな消毒③ ピアノ等会場備付の楽器のこまめな消毒④ 感染リスクを避けるための対策 など |
|---|

○会場内の清掃担当者

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 公演日以外および公演当日の清掃・消毒内容② 消毒液の設置場所 など |
|--|

○保健所

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 公演会場のある地域における保健所の連絡先 など |
|---|

3. 当日の会場入りの際の対策

公演当日及びリハーサル当日、会場入りする際は、出演者・スタッフは次のようなことを徹底する。

- (1) 公演当日及びリハーサル当日は会場入りする前に自宅等で検温し、記録をする。
- (2) マスクを着用し、咳エチケットも実践する。
- (3) 記録した検温結果を公演主催者に報告する。
- (4) 会場入りしたら非接触型の体温計で検温を行い、手洗い、手指の消毒をする。
- (5) 控室、楽屋では、できるだけお互いに距離を保つ。

4. リハーサル、公演時の舞台上での対策

舞台上では接触を抑制する観点から、次のような行動に努める。

- (1) リハーサル中は、出演者は可能な範囲で、スタッフは原則マスクを着用し、咳エチケットも実践する。会話が必要な場合は十分な距離を確保するか、同等の効果を有する対策をとる。
- (2) 舞台上への楽器、椅子及び譜面台等舞台備品の搬入、セッティング及び搬出時、又、譜面台への楽譜のセッティング、回収の際は、特定の人が担当し手袋を着用する等不特定多数が触れないようにする。
- (3) 舞台上の椅子や譜面台、備品、舞台セットはこまめに消毒する。
- (4) 搬入、セッティング、搬出に際して、十分な時間を設定するなどし、十分な感染対策を講じる。
- (5) 舞台上でのセッティングにあたっては、観客との間隔が十分に取れるよう配慮する。芸術表現上又は演奏上難しい場合は使用する客席の位置を舞台から十分離す。
- (6) 機材や備品、用具等の取扱者を選定し、不特定者の共有を制限する。

5. 舞台裏、控室・楽屋等での対策

舞台裏、控室・楽屋等の利用については定期的な換気を心がけ、接触を抑制する観点から、次のような行動に努める。

- (1) 同時に多くの人が同一の場所を利用することの無いように、使用人数全体を抑える。又は使用に際して時間差をとるなどの対応を行い、密になることを避ける。
- (2) 消毒液などを設置する。
- (3) 開閉可能な窓については、適宜、開閉を行い常時換気に努める。
- (4) テーブル、椅子等の物品の消毒は毎日定期的に行う。
- (5) 舞台裏、控室・楽屋では、マスクを着用する。

- (6) 控室や楽屋で飲食をとる際は、できるだけお互いの距離を保ち必要に応じて透明ビニールカーテン等の設置対策を検討する。
- (7) 飲料水は持参するよう周知する。
- (8) 使い捨ての紙皿や紙コップを使用する。
- (9) ケータリングについては、個包装やケースに入れるなど衛生面に十分配慮すること。
- (10) 飲食後のごみは持ち帰りとするを推奨する。
- (11) トイレ
トイレでは、少なくとも1m 以上の間隔を空けて整列するよう周知する。
トイレの使用後は、蓋を閉じてから流すようにする。
清掃回数を増やし、床の除菌の強化を行う。

6. 出演者やスタッフで感染が疑われる人が出たときの対応

公演中又はリハーサル中に感染が疑われる人が出た場合、以下のように行い、適切に対応できるように心掛ける。

- (1) 速やかに別室へ案内し、隔離する。
- (2) 対応するスタッフは、マスクや手袋を着用のうえ対応する。
- (3) 速やかに、医療機関及び保健所へ連絡し、指示を受ける。
- (4) 保健所等の公的機関による聞き取りに協力し、氏名及び緊急連絡先を把握し名簿を作成する等、必要な情報提供を速やかに行えるよう体制を整える。
- (5) スタッフによって取得した個人情報、漏洩することがないよう十分な対策を講じる。

7. 公演終了後の対応

公演終了後は、できるかぎり次のように行う。

- (1) 来場者と接触するような行動は控える。
- (2) サイン会やお客様からのプレゼントや花束等の受領は控える。
- (3) 舞台裏、控室や楽屋には長居せず、速やかに着替え等を済ませて、換気のよい場所へ移動するよう心掛ける。
- (4) 公演後の関係者等による打ち上げやパーティは控える。
- (5) 公演後は舞台上・客席・各部屋・ロビー・トイレをすべて消毒する。

なお、ガイドラインを参考とし感染防止対策を講ずる上では、一般的な対策として、以下の点にも留意すること。

- マスク着用が必要な場面では、必要に応じてフェイスガードの着用を検討する。
- 「三つの密」を避けるため、特に施設内では、以下の措置を講ずる。
 - ・ 必要に応じて入場制限を実施する。
 - ・ 人と人との間や、舞台と客席の間等なるべく2m 以上（最低でも1m）距離を確保する。
- 手洗い、手指の消毒、換気を励行する。
- 名簿等を取得した場合は、その管理・保存（当面の間、1か月以上を目安に）を徹底する。

別紙 演目・プログラムの対策

演目・プログラムの選定は、公演内容での感染リスクを避ける観点から、次の点について配慮する。

- (1) 会場のある自治体の感染状況や各自治体の発している方針を踏まえながら、公演主催者は感染防止対策の対応がどの程度実施できるかを踏まえて演目・プログラムを検討するよう努める。
- (2) 舞台上のスペースに対して出演者間の十分な距離が取れる演目・プログラムを検討する。
- (3) 公演形態における感染予防対策は以下の項目を検討する。(クラシック音楽の場合)

・ 鍵盤楽器、管弦打楽器(ソロやデュオ～室内楽、吹奏楽、オーケストラについても含む)

- ① すべての演奏者は適切な距離を保持し、近距離で向かい合うスタイルは避ける。舞台上の演奏者の位置から客席最前列までの距離について、感染予防に対応した適切な距離を置く、又は同等の効果を有する措置に努める。
- ② 舞台上に多くの演奏者が出演するオーケストラ、吹奏楽等の場合は、各奏者の間は十分な距離を保持し、特に管楽器奏者間の距離、管楽器群と弦楽器群の間等では十分な距離が確保出来るように配慮する。又は距離を置くことと同等の効果を有する措置(例えばアクリル板設置等)に努める。
- ③ 出演者は舞台上においてもマスク着用が望ましいが、演奏上又は表現上の問題を勘案して適宜判断する。

・ 声楽

- ① すべての歌手は適切な距離を保持し、演奏上又は表現上困難な場合を除いて近距離で向かい合うスタイルは避ける。
- ② 歌唱位置から客席最前列までの距離について、感染予防に対応した適切な距離(なるべく2m以上)を置く、又は同等の効果を有する措置に努める。
- ③ 合唱については、適切な感染予防対策の在り方を関係者にて引き続き協議を行うこととし、開催については時宜を得た判断を要するものとする。